東 大 阪 市 総 合 交 通 戦 略

令和元年 11 月

東　　大　　阪　　市

はじめに

本市は、全国高等学校ラグビーフットボール大会やラグビーワールドカップ 2019 の開催地であり、ラグビーを楽しむ全ての人々のあこがれの地である東大阪市花園ラグビー場を有するラグビーのまちとして知られています。また、工場密度が全国１位で中小モノづくり企業が集積するモノづくりのまち、4 つの大学が位置し約 3 万人の学生が集う大学のまちとしても知られています。

これら本市の特色あるまちづくりや、人やモノの流れ、市民の暮らしやすさを支えているのは、利便性の高い交通環境です。本市には現在、鉄道が 6 路線 26 駅、路線バスが 17 路線運行されており、これらを利用する事で大阪市内はもとより、京都・神戸・奈良などへ１時間以内でアクセスでき、大阪の玄関口である新大阪駅にも直結、関西国際空港、大阪国際空港へ向かうリムジンバスも運行されています。また、高速道路は東西に阪神高速 13 号東大阪線、南北に近畿自動車道が整備され、日本夜景遺産にも選ばれた東大阪ジャンクションで両路線が接続していることから、近畿各地の主要都市へ車でのアクセスも非常に便利です。

このように本市の交通環境は都市の魅力を構成する重要なピースではありますが、一方、近年の人口減少・少子高齢化により、公共交通を取り巻く環境が全国的に変化し、利用者の減少、公共交通サービスの低下、移動困難者の増加などが危惧されています。本市においても交通環境の悪化は、都市の魅力低下、都市の衰退に繋がる恐れがあり、本市が主体的に地域の交通を考えていく必要があることから、この度『東大阪市総合交通戦略』を策定いたしました。

東大阪市総合交通戦略では、本市の交通の現状と課題を整理し、「鉄道駅を中心とした誰もが利用しやすい交通環境づくり」を基本方針に、安全安心な交通環境を確保するとともに、大阪モノレール南伸を契機に交通環境の利便性をさらに高め、都市のさらなる発展を目指してまいります。

この戦略の実現にあたっては、市民の皆様・交通事業者・行政が協働し、まちづくりに取り組む必要があります。市民の皆様・交通事業者におかれましては、今後ともより一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、東大阪市総合交通戦略策定にあたりまして、ご協力いただきました東大阪市総合交通戦略検討協議会委員、並びに関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

令和元年 11 月

東大阪市長　野田　義和